

第16回 高速道路の新設等に要する費用の縮減に係る助成に関する委員会

議事概要

1. 日 時 平成24年 6月 7日(木) 15:00~17:00
2. 場 所 独立行政法人 日本高速道路保有・債務返済機構 会議室
3. 出席者 <<委員>> 宮本委員長、市川委員、小澤委員、北橋委員、見波委員、山内委員
4. 議事概要

これまでの審議状況と今後の予定を報告し、高速道路会社より認定申請を受けている11件の経営努力要件適合性について審議を行った。

議 事

[報告事項]

これまでの審議状況と今後の予定

[審議事項]

- [議題1] 橋梁補修工事におけるゴンドラ工法の採用
- [議題2] 流入ランプの盛土構造の見直し
- [議題3] 凍結防止剤散布用新型ノズルの開発
- [議題4] 下層路盤の安定処理材に石炭灰の採用
- [議題5] のり面対策として縦断勾配等の見直し
- [議題6] 電気集塵機のダンパの見直し
- [議題7] 2車線断面トンネルでのセラミックメタルハライドランプの開発
- [議題8] 北関東自動車道(真岡IC~桜川筑西IC)の早期供用
- [議題9] 山陰自動車道(斐川IC~出雲IC)の早期供用
- [議題10] 東九州自動車道(高鍋IC~西都IC)の早期供用
- [議題11] 東九州自動車道(門川IC~日向IC)の早期供用

報告事項について

- これまでの審議状況と今後の予定について、事務局より報告を行った。

審議事項について

- 議題1について、運用指針に定める経営努力要件に適合すると判断した。

●議題2について、運用指針に定める経営努力要件に適合しないと判断した。

主な意見は以下のとおり。

- ・盛土構造を比較し変更するのは当然であり、この点では会社経営努力とは認められないが、一括受託が会社経営努力かどうかという判断が難しい。(委員)
- ・道路利用者の視点から見れば、県・市や高速道路会社で事業調整して当然という面もあるのではないかな。(委員)
- ・全体的に見れば、結果的に費用の縮減につながったという感じが強い。(委員)
- ・本来誰が設計・施工しようとも適切にやるべきものであり、一括受託が会社経営努力というのは整理がつかない。(委員)
- ・会社の縮減努力として認めるべき。(委員)
- ・今後も一括受託で合理的に事業が進められるところはやっていただきたい。(委員)
- ・会社の努力は見受けられるが、今回のような関係機関との調整の結果一括受託でき、その結果発生した費用の縮減は、道路利用者には理解してもらうのは難しい。(委員)

●議題3について、運用指針に定める経営努力要件に適合すると判断した。

●議題4について、運用指針に定める経営努力要件に適合すると判断した。

主な意見は以下のとおり。

- ・電力会社においても従来廃棄処分していた石炭灰の運搬費・処分費の縮減になっていると思われるので、今後も使うのであれば、運搬費について交渉の余地があるかもしれない。(委員)

●議題5について、運用指針に定める経営努力要件に適合すると判断した。

主な意見は以下のとおり。

- ・のり面の安全対策として縦断勾配を厳しくしたことは、現場特有の創意工夫と言うよりは苦肉の策をとったと見える。(委員)
 - ・縦断勾配の特例値採用によりコスト縮減するのを推奨するわけではないが、この現場では粘性土層という特殊な事情があったため工夫したと受け止めるべきだと思う。(委員)
 - ・縦断勾配を変更すると登坂車線は設けなくてよいのか。(委員)
- 設計基準では登坂車線は必要ない。(事務局補足説明)

●議題6について、運用指針に定める経営努力要件に適合すると判断した。

主な意見は以下のとおり。

- ・他のトンネルでも今後はダンパとシャッターの設計比較をすればよく、現場特有の工夫と言えるのか。(委員)
- このトンネルは交通量により全集塵機を一斉に止める時間帯があったことと、一括開閉可能な大きなシャッターを設置できる換気所の構造であったことに現場の特殊性がある。(会社補足説明)

●議題7について、運用指針に定める経営努力要件に適合すると判断した。

主な意見は以下のとおり。

- ・道路照明の技術は LED 照明等に移っていると聞いているが、いまさらセラメタ照明を3車線から2車線断面トンネル用に改良した事が技術的な工夫と言えるのだろうか。(委員)
- 高速道路のトンネル照明としては LED 照明は試行段階で実用化に至っていない。セラメタは安価で光が強い性格があるため、通常の2車線断面トンネルでも利用できるように改良した。(会社補足説明)
- ・今後も積極的に新技術の検討を進めて頂きたいが、当初の協定と比べれば費用は縮減されており、評価して

よいのではないか。(委員)

●議題8～11について、次回以降の委員会において再度審議することとなった。

追加投資をしたことにより工程短縮につながったケースもあり、その事を評価の上でどう取り扱うか審議した上で個別議題について審議する。

以 上